



「MACNAB 腰痛」

Ian Macnab 著, 鈴木信治訳

カナダには色々なタイプの医師が存在する。アメリカで教育を受けた者、英国で教育を受けた者、ケベック州にはフランスで教育を受けた者、およびカナダで生まれカナダで教育を受けた者である。この本の著者マクナブは典型的な英国で教育を受けたタイプであるだけに、一読してまず英国的である事を強く感じる。マクナブ教授は脊椎外科では以前より国際的によく知られた人であり分離すべり症の中の脊椎無分離すべり症の研究は特に有名である。

非常に簡潔明瞭にまとめられた腰痛の手引き書であるが、内容は解剖、腰痛の分類、脊椎性腰痛：骨性病変、脊椎すべり症、仙腸関節の病変、脊椎性腰痛：軟部組織病変、病歴、腰部の診察、神経根刺激のない椎間板変性、神経根刺激のある椎間板変性、脊椎手術の失敗、結語の12章でまとめられている。イラストが大変明瞭でみやすく解剖的な機構がわかりやすくまとめられているので、著者の序文にもあるように抵抗なく腰痛の勉強に楽しくとりかかる事が出来るように配慮されている。各々の章が大変よくまとまっているので知識をつけながらつみ重ねて行く形式の書であり、各所に研究データが組み込まれているのもこの書の特徴である。リハビリテーシ

ョン的な見地からは運動機能解剖の記述がやや少ない感も受けるが解剖がしっかりとまとめてあるので同種の本が多く出版されているにもかかわらず手元においておけば大変重宝な本との印象を強く受けるユニークさを持っている。

診察の順序、鑑別診断のすすめ方などわかりやすいし新しい言葉も興味をひく、すなわち競馬馬症候群、かみそりの刃症候群、病氣心配症候群、擬装を施した情動破綻などである。基本に流れている考え方は腰痛の治療に関して身体症状のみならず社会的、経済的、心理的な因子すべてに配慮が必要であるというリハビリテーション的なものである。文献リストがないのが残念であるが“手術の失敗”という章を特に設けてあるのも著者らしい。訳者の鈴木先生が訳語に苦勞されたあとが充分うかがえるが大変よみやすくわかりやすい翻訳であり、医学生、内科医、理学療法士、作業療法士およびナースの方々に参考になる本である。

(A 5, 246頁, 医歯薬出版, ¥ 4,500, 1980)

(リハビリテーションペインクリニックわらび診療所
医師 荻島 秀男)